

## 令和5年度川崎市公文書館歴史講演会を開催します

川崎市公文書館では、多くの人に川崎の歴史を理解していただき、川崎地域に対する共感と理解を深め、同時に川崎の歴史を後世に伝える史料・公文書を保存し情報として発信する公文書館の役割を広く知っていただくことを目的に、毎年「歴史講演会」を開催しています。

今年度は、「将軍吉宗と川崎宿名主田中休愚」をテーマに、東洋大学名誉教授 文学博士 白川部 達夫氏に御講演いただきます。

**1 日 時** 令和6年3月9日（土）午後2時～午後4時（開場午後1時30分）

**2 場 所** 川崎市高津市民館 12階大会議室  
（川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2）  
JR南武線「武蔵溝ノ口駅」・東急田園都市線「溝の口駅」徒歩3～4分

**3 演 題** 「将軍吉宗と川崎宿名主田中休愚」

徳川吉宗は、八代将軍に就任以来、幕府財政の改革を目指してさまざま施策を実施しました。これが後に享保の改革と呼ばれたものです。農政では代官所の整備、新田開発の促進、年貢徴収法の改正、治水のための国役金の制定など多くの改革が行われました。

川崎宿名主田中休愚は、寛文2年（1662）に武蔵国多摩郡平沢村の名主窪島八郎左衛門の二男として生まれ、長じて川崎宿本陣田中兵庫の養子となり、宝永元年（1704）に本陣名主と問屋を兼ねて、川崎宿の運営に尽力しました。その後、正徳元年（1711）に問屋を譲り江戸で荻生徂徠に学び、享保改革に当たって、『民間省要』を著し、将軍吉宗に献上します。

吉宗は休愚を支配勘定並に抜擢し、川方御普請御用に任命して関東各地の治水に当たらせました。また代官として、武蔵国多摩郡・埼玉郡の内3万石を管轄させました。

講演では、将軍吉宗の享保改革に触れながら田中休愚やその著作『民間省要』について紹介します。

**4 講 師** 白川部 達夫（しらかわべ たつお）氏  
東洋大学名誉教授

主な著書 日本近世の自立と連帯 百姓的世界の展開と頼み証文（東京大学出版会）

**5 募集人員** 100名（当日先着）

**6 受講料** 無料

川崎市総務企画局  
コンプライアンス推進・行政情報管理部  
公文書館 松井  
電 話 044-733-3933